



年末のごあいさつ

一般社団法人電波産業会
事務局 長 松井 房樹

本年も残すところわずかとなりましたが、会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年も、会員の皆様方のご協力及び総務省をはじめ関係各機関のご支援、ご協力のお陰を持ちまして、当会の諸事業を順調に遂行することができました。心から厚くお礼申し上げます。

さて、本年の当会の主な活動をご紹介しますと、まず、調査・研究・開発業務では、各分野で積極的に取り組んで参りましたが、このうち移動通信システムの高度化では、技術委員会に無線LANシステム開発部会、高度無線通信研究委員会に2020年及びそれ以降のシステムの検討を行うアドホックをそれぞれ発足させたほか、放送サービスの高度化では、超高精細度テレビジョン技術に関する検討を加速させました。

標準規格等の策定及び改定では、規格会議を4回開催し、「超高精細度テレビジョン方式スタジオ規格」、「特定ラジオマイクの陸上移動局の無線設備（テレビホワイトスペース帯、1.2GHz帯）」、「1.2GHz/2.3GHz帯テレビジョン放送番組素材伝送用可搬形OFDM方式デジタル無線伝送システム」の計3件の標準規格の策定及び31件の改定並びに25件の技術資料の改定を行いました。

照会相談業務では、電気通信業務用及び公共業務用の周波数を使用する固定局及び地球局を対象とした回線設計及び混信計算等を実施しておりますが、本年1月から11月末までに1482件の処理を行いました。

普及啓発業務につきましては、第24回「電波功績賞」を9団体3個人に授与・贈呈するとともに、電波産業年鑑2013のほか、ARIB機関誌を4回、ARIBニュースを48回発行するとともに、電波利用講演会を2回、電波利用懇話会を13回開催し、電波の利用に関する最新情報の提供を行いました。

また、本年もCEATEC JAPANにおいて独自ブースを設けて最新の事業活動を紹介するとともに、ARIBでの通信放送分野における新技術の標準化に関するセミナーに加え、新たな取組として米国放送分野における新技術の標準化に関するセミナーを実施しました。ITS世界会議東京では、総務省ブースにARIBが事務局を務めるITS情報通信システム推進会議から会員各社が参加し、ITSを支える我が国の情報通信技術を世界にアピールしました。

さらに、総務省をはじめとする関係省庁、放送事業者、企業等と連携し、我が国の地上デジタルテレビジョン放送方式（ISDB-T 方式）の国際普及活動にも積極的に取り組み、ボツワナ共和国、グアテマラ共和国、ホンジュラス共和国の採用決定及びフィリピン共和国の採用再表明に貢献しました。また、ブラジル TV グローボのフェルナンド・ビッテンコート技師長が、我が国放送事業の発展及び日本・ブラジル間の相互理解の促進への貢献で、2013 年秋の外国人叙勲として「旭日中綬章」を受章し、当会で祝賀会を開催しました。第 17 回世界電気通信標準化協調会議（GSC-17 韓国）、第 12 回日中韓情報通信標準化会議（CJK-12 中国）では、各標準化機関との情報・意見交換及び標準化活動の世界的な協調を促進しました。

以上述べましたように、本年の当会の事業は順調に遂行されましたが、来年も業務の円滑な実施に向けて、役職員一丸となって積極的に推進して参りたいと存じますので、本年と同様、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様方におかれましては、来年もますますご健勝でご発展されますようお願い申し上げます。

ARIBの動き

ARIB で APT 研修「次世代移動通信システム」の講義・発表等を実施

12 月 12 日（木）、当会会議室で、APT（Asia-Pacific Telecommunity：アジア太平洋電気通信共同体）研修「次世代移動通信システム実現に向けた取組」（総務省・YRP 研究開発推進協会共催、ARIB 協賛）の一環として、ARIB による講義と各研修者からのカントリーレポートの発表を実施しました。

今回は、アジア・太平洋地域 12 か国の政府から 12 名の研修生（バングラデッシュ、ブータン、カンボジア、中国、インド、モルディブ、ミャンマー、ネパール、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、ベトナム）が参加しました。



APT 研修に出席された方々

午前中は、当会の横尾理事から「ARIB の標準化体制」、鳥越企画国際部長から「ARIB の最近の標準化動向及び IPR 活動」及び佐藤常務理事から「IMT-Advanced 標準化に関する最

新の活動状況」についてそれぞれ講義と質疑を行いました。

午後は、ARIB 会員各社が加わり総勢 40 名近くが参加して、各国の研修生から電気通信主管庁の概要、周波数割当状況、移動通信関連の規制・政策、移動通信技術・サービスに関する最新動向等について、カントリーレポートの発表と質疑を行いました。

多くの国で 3G のサービスが急速に普及しており、一部の国では既に LTE のサービスが開始されているなど、アジア・太平洋地域の目覚ましい発展ぶりが紹介されました。

また、複数の国から、移動通信システムに関する人材育成プログラムの継続的な実施や、最新動向の情報交換、人材交流など日本に対する期待が表明されました。

その後 12 月 13 日（金）及び 12 月 16 日（月）、御協力頂いた日立国際電気様、日本電気様、三菱電機様への訪問を実施し、各社の移動通信システムに関する取組みなどについての講義及び関連のデモや展示室の見学を行いました。研修生からは強い関心が示され、予定時間を超える活発な質疑が行われました。

第 211 回技術委員会（通信・放送合同）を開催

第 211 回技術委員会（通信・放送合同）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 25 年 12 月 18 日（水）午後 4 時から 5 時 35 分まで
- 2 場所 当会第 2・3 会議室
- 3 議事概要
 - (1) 第 90 回規格会議の結果について
 - (2) 電波産業年鑑 2013 の発行について
 - (3) ITU-R WP5D 会合、JTG4-5-6-7 会合、WP5A 会合及び SG5 会合の主要結果について
 - (4) 3GPP の 15 周年記念式典、ETSI 第 62 回総会及び ETSI 主催の将来の移動通信に関するサミットの概要報告
 - (5) ARIB 出版物への非会員からの情報（広告）の掲載について
 - (6) その他

ITU-R SG5 会合の主要結果について（WP5D 関係）

ITU-R SG5 の 12 月に開催された会合の主要結果について報告します。

SG5 は移動業務、固定業務、無線測位業務、アマチュア業務及びアマチュア衛星業務を所掌しており、議長は橋本明氏です。また、配下には 4 つの WP（WP5A～5D）が設置されています。

1 第 8 回会合の概要

- (1) 日 程：2013 年 12 月 2 日（月）～12 月 3 日（火）
- (2) 場 所：ITU 本部（スイス・ジュネーブ）
- (3) 参加者：34 カ国、約 100 名が参加（日本から総務省移動通信課高橋システム開発係長を団長に 9 名が参加）。

2 主要結果（ARIB に特に関係する案件（WP5D：IMT 関係））

WP5D から 3 件の改定勧告案、4 件の新報告案等が提出され、審議の結果、一部修正等が行われた上で全ての文書について合意されました。

主な文書の審議状況を以下に示します。

[WP5D : 改定勧告案]

- (1) WP5D から改定勧告案 M.2012 「IMT-Advanced 詳細無線インタフェース (Detailed specifications of the terrestrial radio interfaces of International Mobile Telecommunications-Advanced (IMT-Advanced)」の提案【入力文書:5/61】がありました。採択され、郵便による承認に付すことが合意されました。
- (2) WP5D から改定勧告案 M.1580-4 「IMT2000 基地局の不要輻射の特性 (Generic unwanted emission characteristics of base stations using the terrestrial radio interfaces of IMT2000)」の提案【入力文書:5/62】がありました。採択され、郵便による承認に付すことが合意されました。
- (3) WP5D から改定勧告案 M.1581-4 「IMT2000 移動基地局の不要輻射の特性 (Generic unwanted emission characteristics of mobile stations using the terrestrial radio interfaces of IMT2000)」の提案【入力文書:5/63】がありました。採択され、郵便による承認に付すことが合意されました。

[WP5D : 新レポート案]

- (1) WP5D から新レポート案 M.[IMT.2020.INPUT] 「勧告 F.1768-1 の所要周波数帯域幅算出法に用いるパラメータ (Future radio aspect parameters for use with the terrestrial IMT spectrum estimate methodology of Recommendation ITU-R M.1768-1)」の提案【入力文書 5/58】がありました。コメントなく承認されました。
- (2) WP5D から新レポート案 M.[IMT.2020.ESTIMATE] 「地上系 IMT のための将来の周波数帯域幅の要求の評価 (Future spectrum requirements estimate for terrestrial IMT)」の提案【入力文書 5/60】がありました。一部修正のうえ承認されました。WP5D で合意された内容について、EBU (European Broadcasting Union) から修正提案等が示され、審議の結果、EBU 案を追記するとともに個々の国で市場環境や規制が異なる場合があること等を追記することで合意されました。
- (3) WP5D から新レポート案 M.[IMT.BROAD.PPDR] 「広帯域 PPDR (公共保安及び災害救助) アプリケーションへの IMT の使用 (The use of International Mobile Telecommunications (IMT) for broadband public protection and disaster relief (PPDR) applications)」の提案【入力文書 5/64】がありました。エディトリアルな修正を行い、承認されました。
- (4) WP5D から新レポート案 M.[IMT.ADV.PARAM] 「IMT-Advanced の共用検討の特性 (Characteristics of terrestrial IMT-Advanced systems for frequency sharing/interference analyses)」の提案【入力文書 5/65】がありました。SG5 議長から修正の指摘があり、同修正を行い、承認されました。

oneM2M 第8回 Technical Plenary 会合 (宮崎) の開催結果

oneM2M 第8回 Technical Plenary (TP) 会合を ARIB 及び TTC が主催して開催しました。

- 1 日 程 : 2013 年 12 月 9 日 (月) ~ 13 日 (金)
- 2 場 所 : フェニックス・シーガイア・リゾート 宮崎国際会議場 (宮崎)
- 3 出席者 : 122 名。日本から、ソフトバンクモバイル、富士通、NTT、日立、NTT ドコモ、KDDI、大日本印刷、住友電工、NEC、イー・アクセス、ARIB、TTC。
ゲストとして、総務省、情報通信研究機構 (NICT)。

4 主要結果：

TP 会合では、機器間通信 (M2M) の具体的な標準を検討する 5 つの Working Group で、技術資料 (TR: Technical Report) 及び技術仕様 (TS: Technical Specification) の策定活動を行っており、2014 年 8 月 1 日のイニシャルリリース発行に向けて精力的に審議が行われています。

今回は、管理技術に関する TR が承認されました。イニシャルリリースでは 12 件の TR 及び TS を発行する予定ですが、今回の承認を含め、これまでに 5 件が承認されました。

また、M2M に使用される 3 種類のプロトコルについての TS を作成する作業項目が承認され、これらの TS もイニシャルリリースの対象に加えられました。

5 次回会合：

第 9 回会合は、2014 年 2 月 17 日～21 日に米国アリゾナ州モバイル市で開催される予定です。



oneM2M 第 8 回 Technical Plenary 会合 (宮崎) の様子

今後の国際関連スケジュール (12 月 24 日～1 月 31 日)

1 月 13 日 (月) ～15 日 (水) : フィリピン共和国に対する地デジ・ICT 分野の官民合同ミッション

今週の ARIB 内会議スケジュール (12 月 24 日～12 月 27 日)

12 月 25 日 (水) : 放送国際標準化 WG & SWG 合同

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp